

令和8年度 明知陣屋跡発掘調査 現地説明会資料

令和8年8月1日 恵那市教育委員会

令和6～7年度にかけて明知城跡の出丸と本丸で発掘調査を実施したところ、明知城跡からは17世紀初頭の遺物が多く出土し、明知城は17世紀初頭に大規模な造成が行われたことが明らかとなりました。明知陣屋については幕末以降の様子は絵図等でわかっていますがそれ以前のことについては不明点が多く、明知城跡と明知陣屋跡のつながりを明らかにするため、発掘調査を実施しました。発掘調査では2m四方のトレンチを2か所に設け、造成状況や出土遺物の確認を行いました。

○発掘掘調査概要

【調査箇所】明知陣屋跡

【調査期間】令和8年6月6日～
8月7日（予定）

○明知陣屋跡について

明知陣屋は江戸時代に明知に置かれた旗本、明知遠山氏の政治の中心施設です。当初は領主の御殿が置かれていたと推定されますが、1678年以降は江戸の屋敷に常住するようになったため、代官をはじめとする在国家臣の居所などになりました。

現在の明知陣屋跡には、陣屋を区画する正面の水堀、背後の土塁、馬場などの遺構が良好に残されています。

江戸時代の陣屋建物については代官屋敷と土蔵が現存しています。陣屋は明治維新に至るまで使用され、1870年に建物が売り払われたことでその役目を終えました。

○陣屋の構造と発掘調査位置

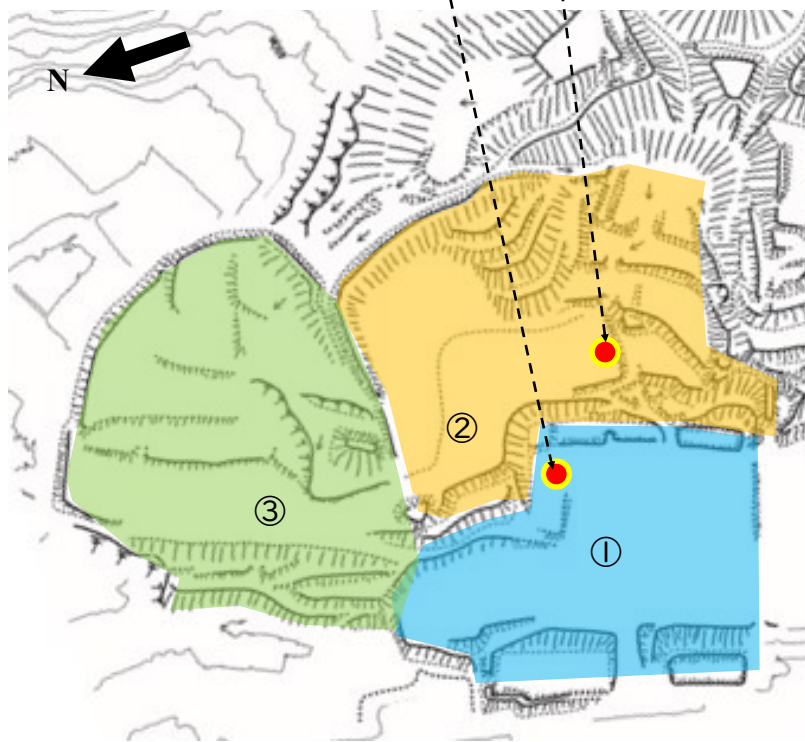
明知陣屋の範囲は絵図に示された区域であり、その内部は①主要な建物のある下段②一段高く、背後の土塁に囲まれた上段③馬場などのある空間、に分けられます。

そのうち上段と下段に一か所ずつ土層確認のためのトレンチを設定しました。上段のトレンチは明知城から続く谷の延長線上にあり、下段のトレンチは絵図上では建物があったと考えられる位置です。

- ①下段
- ②上段
- ③馬場などのある空間



安政四年（1857）明知陣屋絵図



縄張り図：陣屋部分（齋藤慎一委員作成）

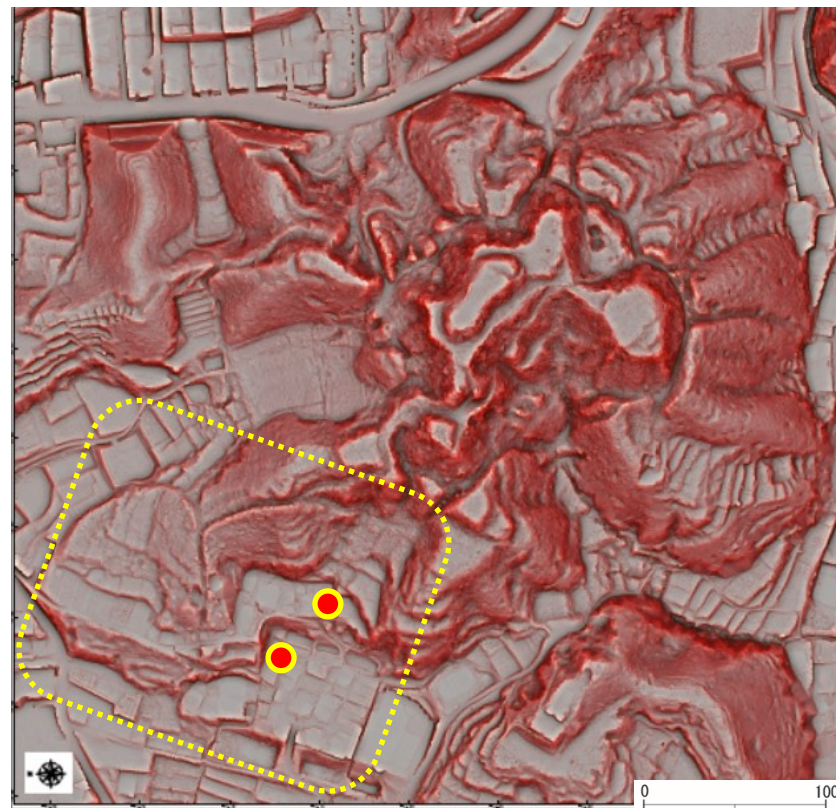
○領主の明知遠山氏について

明知遠山氏は明智・山岡地域の在地領主でした。16世紀中葉には武田方について活動していましたが、1572年に織田方に鞍替えしました。同年武田氏との合戦（上村合戦）において明知遠山氏の当主景行が討死し、跡を継いだ利景も織田方につきました。1574年には武田勝頼の攻撃を受けて明知城は落城しました。本能寺の変後の清須会議の結果、利景は織田信孝に服属しました。翌年の賤ヶ岳の合戦、さらに翌年の小牧・長久手の合戦に伴う戦乱で羽柴方と敵対した利景は森氏に明知城を追われ家康を頼りました。

1600年、関ヶ原の合戦の前哨戦で、利景は明知城を攻略し、合戦後に旧領約6,500石を安堵されました。

1614年に利景が死去し方景（みちかげ）が跡を継ぎ、大坂の陣に従軍しました。1615年頃から参勤交代を始め、江戸と領地の明知を往復する旗本、交代寄合として活動していました。1678年に家督を継いだ伊清（これきよ）は幼年であったため参勤交代をやめ、以後明知遠山氏は江戸に常住します。

西暦	出来事
1572	遠山氏、織田方に寝返る
同年	遠山景行、上村合戦で討死
1574	武田勝頼、明知城・串原城を攻略
1582	森長可、東濃攻略を開始
1583	遠山利景、森長可に降伏
同年	利景、長可から離反し三河に退去
1584	小牧長久手の戦いに伴い、徳川方につき明知城・岩村城を攻略。和睦後に再び三河に退去。明知城は森氏の支城となる
1600	利景、関ヶ原の戦いに伴い、徳川方につき明知城を攻略
1601	利景、旧領を安堵される
1614	利景死去、方景が跡を継ぐ
1614・15	方景、大坂の陣に従軍 このころから参勤交代を始める
1635	参勤交代が制度化
1678	遠山伊清が4歳で家督相続 幼少により参勤交代をやめ定府となる
1857	年代の確認できる最古の陣屋絵図
1870	陣屋建物入札御払い



赤色立体地図（山城・陣屋全体）

○山城と陣屋

明知陣屋は山城に接する位置にあります。陣屋と調査位置は以下のとおりです。

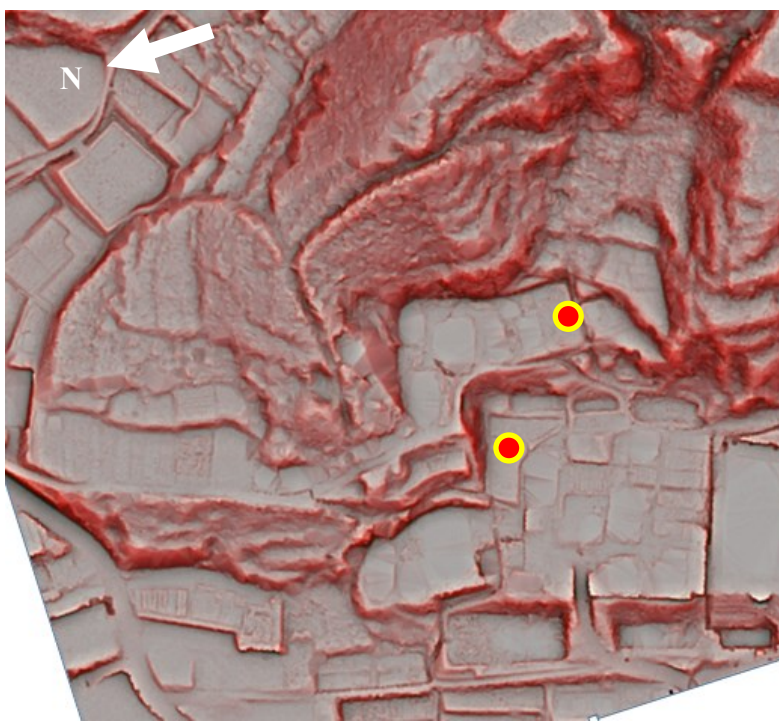
- …明知陣屋
- …今回発掘位置

○赤色立体地図

地形を直感的に把握できるようにした地図です。赤の彩度が高ければ傾斜がきつく、暗いほど窪み、明るいほど突き出した地形であることを示しています。

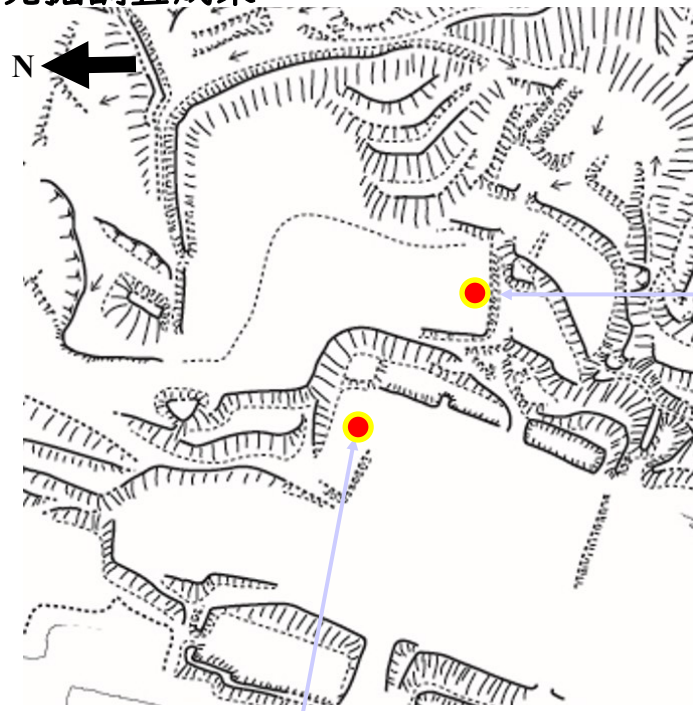
近年利用が広がり、知られていなかった城館跡の発見にもつながっています。

こうした地図を利用して、恵那市では明知城周辺をはじめとする城館の再調査も実施しています。



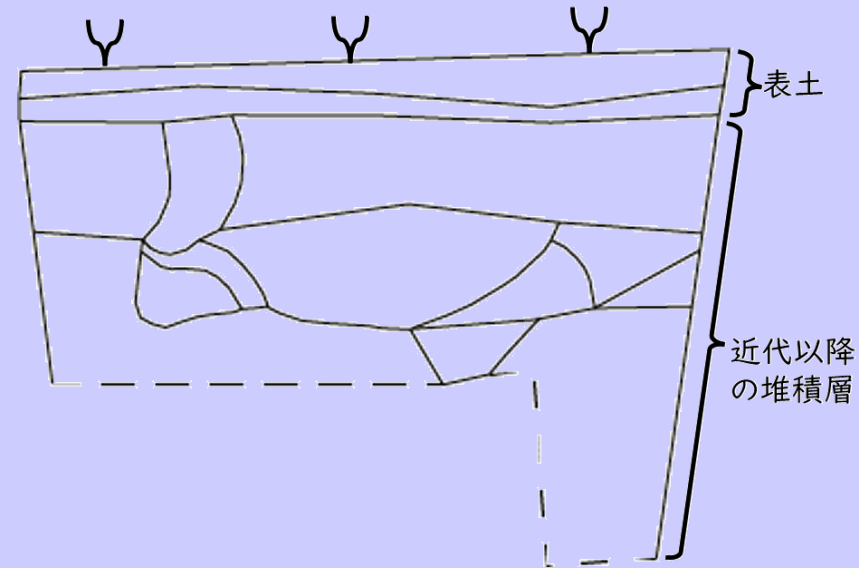
赤色立体地図：陣屋部分

○発掘調査成果



○トレンチ2(上段)

トレンチ2東側断面図



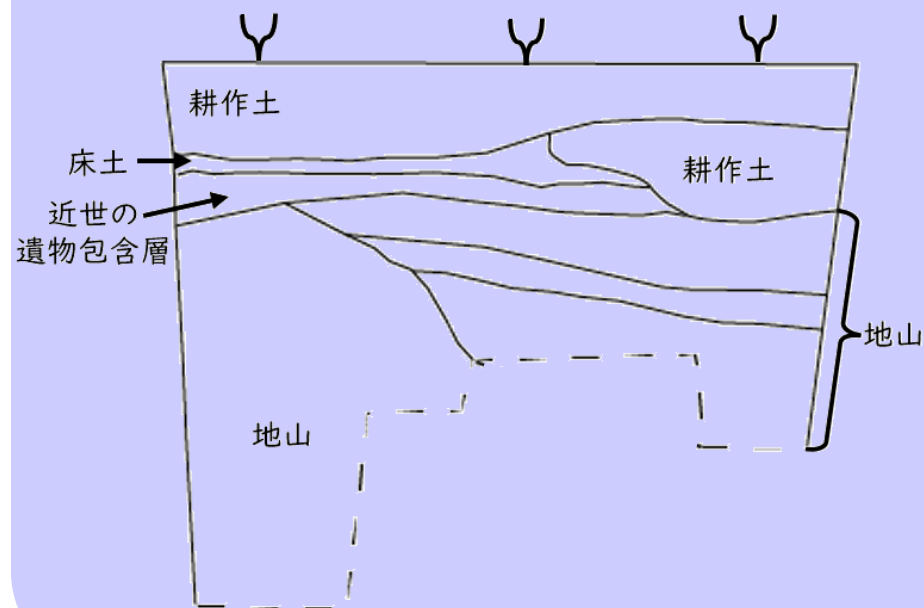
140cm掘り下げましたが近世の遺物包含層や地山に到達することはできませんでした。遺物は近世・近代のものが出土しました。



トレンチ2東側断面写真

○トレンチ1(下段)

トレンチ1東側断面図



最近まで農地として利用されていました。耕作に伴う層と地山の間に近世の遺物包含層を確認しました。近世の遺物は耕作に伴う層からも出土します。



トレンチ1東側断面写真

近世の遺物包含層からの出土遺物



すりばち
播鉢

びんるい
瓶類

どびん
土瓶

てんもくぢゃわん
天目茶碗

かいゆう
灰釉

近世の遺物包含層からは計36点の遺物が出土しており、18世紀後半から19世紀半ばまでのものが中心です。

播鉢…写真の播鉢は1850年頃のものと考えられます。山芋やゴマ以外にも、既製品の食材が少ない時代には、食品加工に頻繁に使用された調理道具です。

瓶類…写真の瓶類は1770年頃の徳利と考えられます。摺絵という技法で絵付けされています。

土瓶…写真の土瓶は1840年頃のものと考えられます。非常に焦げた場所があり、よく使われたことがわかります。

天目茶碗…写真の天目茶碗は17世紀前半のものと考えられ、陣屋の始まりの時期を示す可能性があります。茶の湯で使用される茶碗です。

灰釉…器種は不明ですが、出土した灰釉陶器は近世の焼き物で、灰を釉薬として焼成したものです。

本調査においては、明智町の皆様、御陣屋の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

○発掘調査で明らかになったこと

トレンチ1で水平に削平された地山直上で近世の遺物包含層が検出され、戦国期にさかのぼる遺物も認められないことから、この地点が造成されたのは近世である可能性が高まった。

○中井均(なかい ひとし)氏のコメント

(滋賀県立大学名誉教授、恵那市明知城跡調査検討委員会委員長)

明確な遺構は発見できなかったが、江戸時代の遺物包含層を確認できた。明知城と明知陣屋のつながりを考察する手がかりを得ることができた。



恵那市公式キャラクター「エーナ」

〒509-7292 岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1
恵那市教育委員会 文化課 TEL 0573-26-2153 FAX 0573-26-2189